

令和4年度 中区自立支援協議会活動報告

1. 共通テーマにおける取り組み

中区のテーマを「まるっと支える中区の暮らし～福祉（ひとの幸せ）を実現するネットワークづくり」と決めた。

《指定相談事業所交流部会》 ライフステージとしては児童期・高齢期

○「障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行」8月：制度理解 9月：事例共有
介護保険移行の課題や移行支援のポイントについて事例を通じて学ぶ機会となった。

○「障害児相談」1月：「NPO 法人み・らいず2」と中区内の障害児通所支援事業所をゲストに招き、相談支援事業所と児童の社会資源の交流会を行った。

《作業所交流部会》 児⇒者

○「泉北高等支援学校との交流会」卒業後の日中活動事業所と教育機関の交流で、現状や課題の共有と意見交換を行った。

《全体会議》

○「複合課題を抱える家族への支援事例（若年性認知症の世帯の事例）」

- ・事前に運営会議にて事例を紐解き、情報を整理した。すでに活用している制度や資源を共有し、共通の認識を深め、ネットワークづくりを考える取り組みにつなげた。
- ・10月：事例をもとに連携支援や各機関の役割、社会資源の活用や創出についての視点を深めた。
- ・12月：狭間の課題や家族支援で抜け落ちやすいところに焦点を当てて議論した。「属性を問わない相談支援」世帯が複数の生活上の課題を抱えている世帯の子どもについて焦点を当てた。⇒堺市教育委員会生徒指導課へ依頼し、中区のスクールソーシャルワーカー（SSW）にゲスト参加していただいた。SSWの役割を知り、事例へのアプローチ方法や支援介入事例なども実際に知ることができた。

<取り組みから見えてきたこと>

- ・児童の支援にまつわる課題が再浮上してきた。児童の支援については多岐にわたり、世帯の課題も複雑化してきている。支援連携には情報の共有とアセスメントが大事であるため児童の支援機関に参加をお願いしたい。区協議会への参加を区からも必要に応じ要請しているが、市協議会からも働きかけをお願いしたい。
- ・障害では、地域ケア会議や要対協のような仕組みがない。複合課題を抱える事例について、協議会で検討できないケースもあり、各相談機関で抱えている現状もある。困ったときに相談できる仕組みを考えて行く必要がある。

2. 中区独自の取り組み

○つぶやき（課題）の集約・つぶやきシートでの課題集約。シート記入に限らず、各部会や協議会の中での発言や困りごと、要望から運営会議にて確認し、整理を行う。

○指定相談事業所の交流部 毎月テーマを決めて、取り組みを実施。

共通テーマ以外では「BCPの作成」「社会資源」「事務・運営について」等

○作業所交流部会

- ・イベントグループ：啓発活動「ナカ・ナカマ♡ネットワーク」 勉強会グループ：支援学校との交流会開催等
- ・ナカ・ナカマ♡がいどぶっくの更新（年2回）

<取り組みから見えてきたこと>

- ・作業所交流部会は年々参加事業所が増加している。各部会から地域課題の抽出ができるよう、引き続き各部会での取り組みを行っていきたい。